

1. 調査目的等

中学校全学年・義務教育学校(7～9年)の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

2. 学校ごとの指標

全学年の前年度偏差値を、各教科で1ポイント以上上げる。

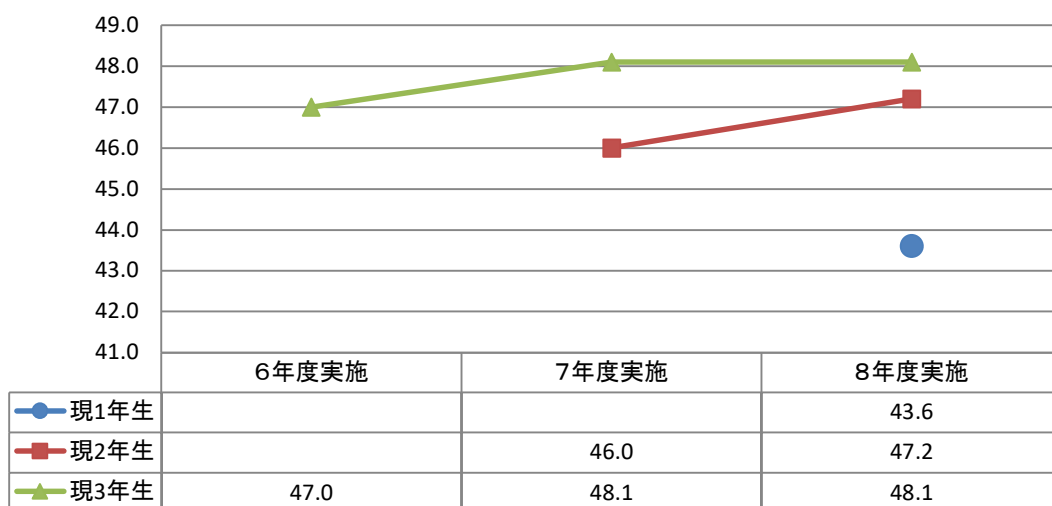
3. 指標にむけての取組

- 基礎・基本の確実な定着
 - ・計画的な朝学習の推進: スモールステップの反復演習により、基礎学力を着実に定着させる。
 - ・毎時間のミニテスト実施: 1単元・1時間の授業内において、既習内容の確実な定着を図る。
- 授業改善と家庭学習の質的・量的充実
 - ・個に応じた最適な課題提示: 生徒の習熟度に応じ、個々の能力を伸ばす課題を提示する。
- 各教科のデータに基づく実態把握と改善

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)					
年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
本校(A)	44.4	44.6	46.5	47.8	46.3
嘉麻市(B)	46.0	45.5	45.8	45.8	45.1
(A) - (B)	-1.6	-0.9	0.7	2.0	1.2
標準偏差値との差 (A) - (50)	-5.6	-5.4	-3.5	-2.2	-3.7

各学年の推移



5. 各学校における分析

8・9年生は、前年度の学力検査に比べC・D層の割合がやや減少している。領域ごとに課題のある生徒を把握し、授業内でのミニテストや単元テスト後の補充、自学ノートによる反復、計画的な朝学習、個に応じた週末課題などの継続的な活動が実を結んだものとする。基礎・基本をさらに徹底させ、応用・活用問題に挑戦する機会を増やしていく。

結果としては、前年度(7・8年生時)に比べてやや改善が見られた。これは、単元テストの計画的な実施、学習内容の確実な定着を目指した指導が成果として表れたものだと考えている。

6. 各学校における今後の取組

○ 基礎・基本の確実な定着

- ・毎時間のミニテスト実施:1単位時間内における学習内容の定着を徹底する。
- ・計画的な「イナスタ」の推進:スモールステップの演習により、基礎学力を着実に培う。
- ・自学ノートの活用:自主学習の習慣化と反復学習による定着を図る。

○ 授業づくりの改善

- ・学びの選択肢の保障:「主体的・対話的で深い学び」の充実へ向け、学習者が主体的に選択できる学習環境を構築する。
- ・単元テストと補充学習の連動:成果指標に基づく取組と評価に基づく補充指導を徹底する。
- ・主体的に学び続ける子どもを育てるために、学びを調整する力を軸とした授業を展開する。また、その中に、ICT機器の効果的な活用を図る。

○ 結果をもとにした指導改善

- ・領域別データの分析:得点率等のデータから実態を把握し、教科部会等で改善策を決定する。
- ・短期的なPDCAサイクルの機能化:検証と改善のサイクルを迅速に回し、指導に還元する。

○ 戦略的な職員研修の推進

- ・分析結果の共有とD層の見取り:データ分析を共有し、下位層(D層)の変容を見とる。
- ・得意分野の検証と実践の共有:成果を収めた領域を特定し、有効なアプローチを全校で共有していく。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

○分かる授業づくりのために、単元テスト等によるより短いスパンでの子ども達の状況を把握し、個に応じた指導を充実させることで、授業改善を図っていく。

○子どもの思考活動の充実を図るために、一単位時間の授業の流れのモデルを基にした授業づくりやICT機器を効果的に活用した授業づくりの推進に努める。

○家庭学習の習慣化を推進するために、「家庭学習のすすめ」等を活用した効果的な家庭学習の設定について改善を図る。

○上記の3点について、嘉麻市学力検証委員会や主幹教諭研修会等において各校の取組を交流することで、各校における確実な実施を図るとともに、好事例の紹介や組織的な取組の在り方についての指導助言を通して、充実を図っていく。